

令和元年度 第2回 宜野湾市子ども・子育て会議

日時：令和元年8月27日（火） 10：00～12：00

場所：宜野湾市役所 2階 庁議室

出席委員：上地武昭会長、岡田洋代副会長、砂川麻世委員、國場福太郎委員、谷成悟委員、
谷畑誠委員、比嘉健委員、金城智子委員、仲田丘委員、甲斐達二委員、知念徳子委員、
大城周子委員、仲村義明委員、名嘉真正明委員

欠席委員：渡久山慎二委員、

事務局：福祉推進部次長、指導部次長、指導課2人、こども企画課6人、
子育て支援課3人、(株)沖縄計画機構2人

- 1 開会
- 2 事務局説明
 - ①議事概要について
 - ②副会長の選任について
- 3 議事
 - ①平成30年度宜野湾市子ども・子育て支援事業計画の各事業の評価について
 - ②第2期宜野湾市子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みについて
- 4 その他
 - ①今後のスケジュールについて
 - ②幼児教育・保育の無償化について
- 5 意見交換等
- 6 閉会

「議事概要」及び「今後のスケジュール」については質疑なし。

「副会長の選任」について事務局の提案どおり岡田洋代委員を副会長とすることを委員から承認を得た。

「各事業の評価」及び「量の見込み」については事務局から説明を行い以下のような議論が行われた。

1 各事業の評価

A委員： できないものはできないで今一度整理した方が良いのではないかな。評価は何のためにしているのか伺いたい。

事務局： PDCAサイクルに基づく評価、見直し、改善を図っていくためであるが、実施できない部分は計画の修正等も必要になってくるのではないかと考えている。

A委員： 例えば、人員の確保の問題等、どうしても解決が難しいものがある。そのようなものについては、評価の仕方として見直しが必要ではないか。

- 事務局： 保育士の確保等、宜野湾市のみならず県全体の課題である。次年度は記載の方法等を工夫をする必要があると考えている。
- B 委員： 基本目標 1. (2)-5「一時預かり事業の充実（幼稚園）」について、私立幼稚園の 3 歳児も含めていかなければならないと思う。
- 事務局： 私立幼稚園も実施しているので、第 2 期の計画についてはそれを踏まえ記載を検討していく。
- C 委員： 基本目標 2. (2)-2「月 1 回健診事後教室（のびっこ親子教室）を実施」とあるが、内容について教えて頂きたい。
- 事務局： 主に健診の所見で発達の遅れが気になるお子さんや保護者を対象に月 1 回実施しており、保健相談センターで保健師や臨床心理士等が参加してフォローにあたっている。
- C 委員： 基本目標 2. (2)-9「ペアトレ・ティーチャーズトレーニング」について、A 評価となっているが、参加した保護者や先生の実績等を教えて頂きたい。
- 事務局： 公立保育所、健康増進課、事業所等と連携して実施している。細かい内容を把握できておらず即答ができないので改めて回答する。
- 事務局： 公立保育所の部分では、発達の遅れがあるお子さんの親御さんへの支援のための教室で、公立保育所の保育士が何名か参加しており、希望者を募って障がい福祉課と子育て支援課が連携をして実施している。どうすれば子どもに対して上手く関わっていけるのか、親御さんの不安感などを解消していくためのもので、対象の親御さんは 10 名ほどだが、支援の効果については好評を得ている。
- C 委員： 基本目標 3. (1)-3「家庭相談員」は何人いるのか。どういった方々が担っているのか。また、幼稚園や小学校の先生たちが相談員の方に定期的に会えるような仕組みがあるのかどうか。虐待を受けている子の情報提供があることによって繋がることはできないか。
- 事務局： 家庭相談員は現在 4 名配置（中学校区）している。連携に向けて、今後、認可外保育施設の巡回も実施していく。
- D 委員： 児童相談 559 件のうち虐待相談件数が 69 件とあるが、どういった相談があるのか。
- 事務局： 虐待相談については、身体的虐待、ネグレクト、性的虐待が主な内容で、児童相談所からの通報などが含まれている。
- D 委員： 目標値の「職員、家庭相談員のスキルアップ」というのが気になる。専門家を置いて虐待を解決することが目標なのか、そうではなく関わっている職員のスキルアップを目標としているのか。
- 事務局： 目標値としては担当課で設定したスキルアップではあるが、最終的な目標は虐待防止に向けた取り組みである。
- E 委員： 小学生のアンケート集計結果で「育児の方法がわからない」が 3%あるが、この数値は言葉に出している人たちの数値で、実際には虐待など本人でも認識していない人はもっといると思う。虐待をどうやって未然に防いでいくのか、認識していない人に対してどう改善していくのかを、もう少し掘り下げることができないか。また、虐待相談件数 69 件は誰が通報者なのか。

事務局： 虐待相談の細かい内容は手元に資料が無い。児童相談の 599 件の経路としては、一番多いのが市町村の福祉機関・その他が 243 件、次に教育委員会・学校関係が 155 件、家族・親族が 90 件、児童相談所が 53 件となっている。

E 委員： 収入によって保育料が変わってくるが、ある園では比較的収入の多い家庭はクレームが少なく、収入の少ない家庭の方があきらかにクレームが多いと聞いた。クレームの内容としては些細なことらしいのだが、その家庭を見ると子育てがきちんできていないような状況で、ネグレクトが背景にあるように伺える。虐待の取り組みとしては的をしぼるのではなく、総合的な対策が必要ではないかと思う。

事務局： 児童虐待に関する啓発については、宜野湾市のみならず全国的にも問題となっており課題である。要保護児童対策地域協議会で、個別ケースの確認、啓発に向けて実施している状況だが、表に出てこない部分の対応については大きな課題だと認識している。

F 委員： 保育園では、虐待のシグナルを見逃さないようにしているが、虐待する親は自分からは絶対に口にしない。しかし、どこにも相談できず悩んでいたり、その親自体も虐待を受けていた状況が見受けられる。責めたり否定するのではなく、聞き取りをして気持ちを引き出すことで、子育てに対して前向きになるのではないか。

G 委員： 第 2 期の予算化でお願いしたいのは、もちろん施設や機能も大事だが、専門職の方を増やすこと。専門職の採用に本腰を入れて取り組んでいかなければならない時期だと思う。

基本目標 3. (3)-2 ワークライフバランスが進んで働く環境が良くなると、子育てにも余裕ができるし、子どもと向き合う時間もでき虐待も防止できるのではないか。県が推奨している認証制度を発表し、市内の企業に関心を持って取り組んでもらうなど、具体的な支援や市民への周知が必要である。

事務局： 関係課としっかり連携を取り進めていきたい。専門職員が少ないという課題は認識している。ご意見を参考にさせて頂きながら検討していく。

※各事業の評価について、委員から承認を得た。

2 量の見込みについて

H 委員： 2 ページの放課後健全育成事業について、年収の多い家庭は非常に高額で入りづらいのだが、作業部会で意見等はあったか。この数値によって予算の枠組が決まってしまうので、福祉教育の観点から見ると削るのではなく増やした方が良いのではないか。

また、3 ページの病児保育事業について、普段行きなれていない病院に行くというのは子どもにとって不安があると思う。今後の方向としては、医療機関や施設を検討するのではなく、保護者が仕事を休んで子どもを看ることを目指して頂きたい。

事務局： 量の見込みに対して確保方策を作っていく必要がある。数を増やすとその分施設を増やして補うということで対応しなければならないことから、待機児童の状況等も含め勘案しながら見込み量を設定していく。

I 委員： 宜野湾市では、海邦病院以外に病児保育事業をやっているところはないのか。

事 務 局： 病児保育事業は、病院で診察を受けて病院で預かる事業となっており、海邦病院は病児保育自体は行っているが、現在小児科が休止しており、別の病院で診察を受けてから海邦病院に行かなければならない。

※量の見込みについては、事務局（案）の提案どおり進めることを委員から承認を得た。

3 その他

H 委員： 学童クラブの8割以上が送迎バスを使用しており、学校から学童クラブまで送迎しているが、駐車場の問題や周辺道路が狭いなど小学校区によって非常に差があり、近隣の住民から苦情がきている。志真志小学校は建て替え中なので場所の確保をして頂きたい。通行許可証を発行しているのは、大山、はごろも、大謝名小学校で、残りの全小学校にも発行して頂きたい。

J 委員： 幼児教育の無償化に伴い質の問題が更に問われてくる。勉強会や研修会や資格などはどうのようにされているのか。

事 務 局： 認可の園長会、地域型、認可外保育施設では毎月1回連絡協議会を開催しており情報交換等を行っているが、個別によって保育に関わる内容の研修は現在実施していない。認可外保育施設については、質の向上や課題解決ということで4月から協議会を行っている。幼稚園でも先生方を対象にした研修会を行っており、宜野湾市の教育研修会では、幼稚園教育を主とした講演会ではあったが、市内の保育所や小中学校の先生方にも参加を呼び掛けた。